

キラリ★ 話題の「ひと」



さかなし ともりのり
坂梨 智紀さん
(赤見町)

○プロフィール
プロボクサー
足利ボクシングジム所属

日本チャンピオン 目指して

坂

梨さんと記者は、報恩寺（山形町）の座禅会で出会いました。この時、坂梨さんは和服姿で芸能人のように見えました。が、プロボクサーと聞き、驚きました。

高校時代に空手を習い、その後キックボクシング、さらに勧められてボクシングに転向し、現在はプロとして活動中です。ボクシングは最初、協栄ジムに所属され、のちに足利ボクシングジム所属となりました。

日頃のトレーニングは朝のロードワーク、体幹訓練などで、夕方太田市のポンムエタイジムで元世界ランカーのトレーナーに指導を受けています。その指導内容はシャドーボクシング、サンドバッグ、スパarringなどです。ハードな内容で、動きも速く、記者が写真撮影をした時は、カメラが動きを捉えきれなかったです。

また、コロナの影響で試合がなく、モチベーションの維持に苦労したそうです。つらいのは試合前の減量で、54〜56kgの体重を、47・62kgまで減量するとのこと。

体脂肪だけでなく筋肉も減ってしまっています。

生活信条は「自分らしく生きること」。座禅も自分を見つめ、心の声に耳を傾けるためです。また「感謝する」、「悪口を言わない」、「裏表なく生きる」、「腰は低く、意識は高く」、「実際にやってみないと分からない」なども坂梨さんの精神を支えることばです。

座禅会に和服で来た理由も、禅と言う鎌倉文化に、きちんと和服で臨み、気を引き締めて取り組むためとのことでした。和服の帯、試合用トランクスには坂梨さんの好きな龍が描かれています。龍は昇竜、天を目指す勢いです。その強さを目指す坂梨さんの意気込みを感じました。

(市民記者 福田満)



▲ボクシング練習の様子

市長からの メッセージ

コロナ感染者の増加、原油価格や物価の高騰と我々の生活にとって今まで以上に厳しい状況が続く中、先月その対策事業のために予算の補正を行いました。市民生活・事業活動への支援に加え、医療機関や農業者への支援、教育環境の整備、団体への支援などさまざまな取り組みで、少しでも皆さまの生活の一助にしたいと思っています。

さて、今月は本市の天明鋳物について、少しお話したいと思います。天明鋳物は、一千年の歴史を誇る本市の伝統工芸であります。特許庁の制度である地域団体商標への「天明鋳物」の登録を目指し、佐野商工会議所、そして鋳物師の皆さまと共に「佐野市天明鋳物振興協議会」を立ち上げ、取り組みを進めております。その中で課題として挙がっているものが、認知度の向上です。登録には地域でのブランド力の証明が必要であり、年間を通して作品を展示できる環境の整備、天明鋳物に関するイベントの開催などを通して更なる認知度の向上を図ることで、商標登録の早期実現につなげていきます。

また、現在、県指定となっております天明鋳物生産用具についても、国重要有形民俗文化財への指定に向け、作業を進めております。既に調査・記録を終えた資料類の確認・整理を行い、「佐野の天明鋳物を語る伝統的な生産用具」として指定をいただけるように、必要な対象資料を精査し、文化庁への提出を目指します。商標登録と併せ、国指定化による認知度向上は伝統的技術の保存・伝承の好機と捉え、積極的に取り組んでいきます。

今後も商標登録、国指定化を着実に進め、本市が誇る天明鋳物が未永く継承されるよう、行政として産業と歴史文化の両面からしっかりと後押しを行い、文化と文明の調和を図ってまいります。

金子裕

今回の表紙 「佐野モーニングバルーン at SICG」 令和4年7月30日撮影

佐野市国際クリケット場にて気球イベントが開催されました。早朝の気持ち良い空気の中、参加者は気球に乗って地上30メートルの景色を楽しんでいました。





ミニストップで佐野市のご当地グルメを販売！

8月17日(水)からミニストップ各店にて、本市のご当地グルメが発売となりました。ミニストップでは、昨年11月にも全国約2,000店舗で「佐野黒から揚げ」を発売していただいております。その際には惣菜商品の中で最高の販売数を記録したそうです。

今年は、昨年好評だった「佐野黒から揚げ」が再販されるほか、新商品として本市のご当地グルメである「いもフライ」が登場します。また、「佐野黒から揚げ」と「いもフライ」の両方を味わえる「得とくパック黒から・いもセット」も同時発売となります。皆さんぜひご賞味ください。



いちご一会とちぎ国体佐野市炬火イベントが開催

7月30日(土)、いちご一会とちぎ国体佐野市炬火イベントが開催されました。炬火とはオリンピックの聖火にあたるもので、国体期間中、炬火台から選手たちを見守り続けます。

今回のイベントでは、佐野市の炬火名が発表され、一般公募の中から最優秀賞に選ばれた、栃本小学校5年の福地幸之輔さんによる炬火名「佐野でつなぐ 夢と感動 出会いの火」が佐野市の炬火名としてお披露目されました。また、同日開催のバレーボール教室に参加した小・中・高校生の手によって、炬火の点火が行われました。

炬火は県内各市町で点火され、国体開会式の際に各市町代表者により一つの炬火として集められる予定です。



佐野弁 ばんでい

モジル(モジクル)は
揉んでしわくちゃにするの事をいう

あかちゃんは今まであったことのない人の顔を見ると、恥ずかしくて目をそむけたり、はにかんで顔をそらしたりします。そして今にも泣きだしそうになります。この様子を方言では「泣きソツペンなる」といいます。また、あかちゃんをおぶっているとき、見知らぬ人に話しかけられると、恥ずかしくて体をひねり向きを変えたりします。このようなしぐさをモジルといいます。

いらだって泣きながら反り返ることを、ソツケル・ソツケルケルなどといいます。あかちゃんの動作や表情を表す方言にも、いろいろなものがあるんですね。

「あかちゃんは、見知らぬ人が笑顔であやしたって、モジッチャツテさあ。泣きソツペンナツチャン(泣きそうになるんだから。気が進まないときにはソツクルケツて泣き出すんだ)」

モジルには、もう一つの意味があります。それは両手に挟んでこすったり、手で揉んでしわくちゃにし、柔らかくして張りがないようにすることをいいます。

「広告紙をモジッてたら、ふにやふにやんなつチャツタンで、くず入れに捨てチャツタ」

モジルと同じ意味を持つ方言にモジクルがあります。「固めのはちや柿だつて両手でモジクツてると、ヤーラカクなつて食べられるんだよ」

よくないことや悪いかわさを、世間に知られないように手段を尽くして、なくしてしまうということをモリジツケスといいます。このモリジツケスは、モジル(揉む)とケス(消す)が結びついたものです。

(市民記者 森下喜一)

